

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

51号
2014年8月18日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DDC会館内
〒043-2222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

戦争と民営化と闘う 労働組合の復権を！

今秋過程で署名10万筆の達成へ



最高裁へ署名5840筆を提出

8月1日、「解雇撤回・JR復帰」署名の第4回提出行動を行った。

外注化の過程における 労働運動の新たな展開

動労千葉の新しい闘いや全国運動の今後の方向性について呼びかけ人の伊藤晃さんが動労千葉を支援する国会（7月20日）で行った発言を紹介しします。

外注化の破たん

動労千葉の運動は今どうなっているか、私がどう思うかについて感じているかという話をお話したいと思います。



この間、私が一番注目したのは、なんとと言っても5月2日のストライキでありました。このストをめぐっているような問題が提起されていると思います。JR千葉鉄道サービス（CTS）と動労千葉との団交の中で、CTS側はプロパーの訓練の問題で「求められているのは仕様書に則って作業を履行することであり、JRと同じ総合的技術力を持つ社員を伴うことではない」と言った、と『日刊動労千

解雇撤回・JR復帰を求める最高裁署名 6万4698筆（14年8月18日現在）

葉』で報じられております。

私はこれを見まして、外注化が行き着くところまで行き着いたという感じを持ちました。

外注化は労働者の地位、生活を変えるだけでなく、労働そのものを全体として変えてしま

う。「仕様書に従えばいいんだ」ということは、ある技術的手段に対して決められたことをやればいいんだということですね。

ただ、その個々をつなぎ合わせれば仕事は成り立つんだということですね。

ただ、私たちが、決められたことの隙間にいろいろと問題が起り、その一つひとつが重大であるということ、これを労働運動の立場からいつも経験してきているわけでありまして。

そういった一つひとつのこ

と、何が起るか分からない想定外のことについてその場で判断するのは人間であって、総合的技術力というのは、判断力を持つということであろう、と私は思います。

どこに危険があるかは現場の人間が一番わかっている。現場の労働者でなければわからないことがある。その人間をバラバラにしてしまう。外注化とはそういうものである。個人個人がバラバラになるということだけではなくて、一人の人間がその内部でバラバラにされて、部分能力に分解されてしまつていくことが外注化において進んでいると思います。

職場と社会を守る

「さまざまな職場で起ることにについて私たちが共同すれば

すべて対処能力を持っている」

——これは労働者が持っている誇りでありまして。したがって「この職場は私たちが動かしているんだ」ということを労働者が自信を持って言えるわけでありまして。

これを奪うことが合理化であり、外注化である。誰でもいいんだ、マニュアルに従っていいんだから誰でもできるんだ、つまり取り替えができる。だからその労働者の地位や権利や生活、これを切り下げる、価値が低いんだから切り下げるのは当然だということになります。

一人ひとりのまとまった人間としての労働者に賃金を支払うのではなくて、バラバラにされた労働の切れ端に対して支払うということがいま行われている

議論になっているのは、安倍政権による集団的自衛権の行使容認の問題です。戦後の歴史は、再軍備と改憲、戦争のできる国へ変貌させる政治反動との闘いの歴史でした。これまで戦争を阻んできたのは労働組合の闘いです。国鉄分割・民営化によって労働運動が後退する中で労働者は非正規に突き落とされ、自衛隊の海外派兵や有事法制、そして集団的自衛権行使にまで行き着きました。

こんな社会を変えなければならぬ、戦争の道を許してはならない。こんな時代だからこそ労働組合を原点に帰ってよみがえらせることが必要です。労働組合は労働

者

者が団結して闘うための武器であることを、今回の国鉄集会で訴えていきたいと思います。

各地で国鉄集会の成功を 地域の労組の結集を呼びかけ

千葉では10月5日に国鉄集会を準備しています。動労千葉とちば合同労組の2労組の呼びかけで実行委員会を立ち上げ県内の労働組合の結集を呼びかける予定です。1047名闘争は2010年の政治和解を超えて闘われ、動労千葉は外注化粉碎・CTS労働者の獲得をめぐる新たな挑戦を開始しました。ちば合同労組もすぎ家ストライキなど地域の労働組合として県内の未組織労働者の組織化を進めてきました。

千葉県内に闘う労働組合のネットワークをつくらう、自分の職場で闘う労働組合をつくらうと呼びかけていきたいと思います。

さらに今回の集会は、解雇撤回10万筆署名の達成を据え、千葉県内で目標の数を達成することを集会の具体的な活動や訴え、結果軸としていきたいと考えています。

また教育現場や自治体現場における民営化と外注化、非正規雇用化攻撃と闘う集会としてかちどり

たいと考えています。

ことではないでしょうか。成果主義とか、残業ゼロの本質がここにある。成果主義というのも新聞などで騒がれていますが、外注化の過程、非正規の過程とはつきり結びつけられているかという、私は結びつけられていないように思います。非常に関係のあることだと私は思います。外注化というものは論理的に成果主義を生み出すと思います。

もう一つ。「仕様書通りにやればいいんだ」ということは、よつするに外の力によって動かされる無力な人間に労働者をつくり変えるということでありまして。誰でもいいんだ、ダメなら取り替えればいいんだ、事故が起れば責任をとりさせてクビにすればいいんだということになります。

CTSのプロパーの人たちに対して動労千葉の出向した人たちは、日常的に深い議論を始めようとしていると聞いております。

（裏面に続く）

各地の国鉄集会（予定）

9月27日 埼玉

9月28日 茨城・長野・群馬

9月27日 北海道（札幌）

10月2日 東京西部

10月3日 東京東部・北部

10月4日 東京中部・三多摩・栃木

10月5日 神奈川・静岡・山梨

10月10日 千葉・東京南部

10月11日 宮城

10月17日 新潟

10月19日 関西・青森

秋田・北陸・福岡

集团的自衛権

改憲を阻んできた国鉄闘争

今こそ労働運動を時代の最前線に

「行政改革でお座敷を大掃除して床の間に立派な憲法を安置する」——国鉄分割・民営化に際し、時の首相・中曽根は、その目的が労働組解と改憲にあることを公言しました。新自由主義の出発点となった歴史を画す大反動に労働運動は対決できず後退を重ねてきました。

その数年後の1991年の湾岸戦争では、ついに自衛隊掃海

艇部隊の海外派兵が行われ、PKOカンボジア派兵や日米防衛協力ガイドラインの再定義や有事法制など、改憲と戦争の政治が繰り返されてきました。

他方で、分割・民営化に対して動労千葉は2波のストライキで闘い抜いて団結を守り抜き、国鉄労働者1047名の解雇撤回闘争が始まり、国鉄闘争は一

線を守り抜き、総評解散→連合結成への対抗軸となってきました。

日教組は「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを今も維持し、数年前には石原都政に対して多数の教育労働者が「日の丸・君が代」不起立闘争を叩きつけました。沖縄闘争や反基地闘争は今なお労働組合が最大の担



手です。

底知れぬ資本主義の危機の中で安倍政権は、秘密保護法や集团的自衛権の行使容認など、改憲と戦争へ突撃しています。四半世紀を超えて中曽根が国鉄分割・民営化にかけた反動的野望との対決が大テーマになっています。

「戦争反対」は戦後労働運動の最大の使命です。アジアで2千万人の命を奪った侵略戦争の敗戦後、焼け跡と飢餓の中

から日本の労働運動は再出発しました。朝鮮戦争の勃発と再軍備の動きの中で日教組は「教え子を戦場に送るな、青年よ再び銃を取るな」のスローガンを採択しました。戦争反対は労働組合にとって当然かつ最大の任務で

闘争、沖縄闘争や反基地闘争の担い手は労働組合でした。

中曽根は、労働組合の解体と変質なしに悲願の改憲は絶対に

ならなければならないと考え出たらしいですね。

新聞によりますと、教員の負担を軽減するために外部の力を投入するといっています。そしてまた、事務は学校同士で共同化する。

これはほんでもないことだと思えます。教育そのものを機械化し、マニュアル化する、もしそれができるならば誰を連れてきても同じです。だれぞれはできないのです。丸ごとの人間としての教員・職員と、丸ごとの人間としての生徒が向かい合

うというのが教育という場です。これを崩したら教育というものは成り立ちません。

これに日教組がどう対応しているかはわかりませんが、教員、職員が唯一現場のことがわかる者として教育を守っている。権力と資本は社会を動員している。これに対して、この現場は私たちが守っている、私たち労働者が教育を立て直す、この現場に行ってもこれは同じことだろうと思えます。

議論を組織しよう

できないことを強烈に自覚していました。中曽根の野望をこらえてきたのは国鉄闘争でした。動労千葉のストライキは、戦後政治の総決算という歴史を画する攻撃との対決をかけて真正面からすべてをかけて闘われたのです。

JR郡山総合車両センターで働く国労郡山工場支部が、10月1日の業務外注化阻止を闘うことを決定しました。

JRが郡山で10月1日に外注化しようとしているのは、機器着脱業務、主電動機大修工事の一部業務、車両旋盤業務です。同センターはJR東日本全体の列車の検査・修繕の要に位置する歴史ある職場であり、業務をバラバラにする外注化はJR全体の安全崩壊に直結するものとなります。

しかも、外注会社の労働者の教育期間はわずか3カ月。列車の検査・修繕は国鉄時代でも10年かかってやっと二人前になれた仕事です。それを3カ月で覚えることなど不可能です。外注化は、労働者・労働組合の誇りと団結を奪うものです。

この間の業務外注化によって車両故障件数は、郡山は他と比べてもダントツに多くなっています。国労郡山工場支部の

7月1日の集团的自衛権の行使容認の閣議決定に対して、人びとの気持ちが動き始めました。集团的自衛権の行使容認を弾劾した長崎被爆者の決起や常磐線延伸に対する動労水戸のスボなど、断固とした行動が人びとの気持ちをこらえ、状況を転

換できる時代に入っています。国鉄1047名解雇撤回闘争とJR外注化阻止の闘いを先頭に民営化と戦争と闘う労働組合を全国の職場につくりだそう。

安倍政権の改憲と戦争、福島原発・原発再稼働を阻む労働運動をよみがえらせよう。

外注化阻止！ 9・11郡山集会へ

労働者は「これ以上の外注化拡大はJR北海道や尼崎事故以上の重大な事故を引き起こす」と怒りを込めて訴えています。国労郡山工場支部は、「3・11」以降、原発事故による被曝労働を強制する会社と闘ってきました。国労郡山工場支部の外注化阻止の決断と闘いは「命よりカネ」のJRと安倍に立ち向かう歴史的な闘いです。国労郡山工場支部の呼びかけに込め、全国から集まって下さい。(全国運動事務局)

JRの安全破壊を許さない！
JR郡山総合車両センター外注化阻止！
9・11集会

〔日時〕9月11日(木) 13時集合
〔場所〕本町緑地(JR郡山駅から南に徒歩5分。陸橋の南側の公園)
〔主催〕国鉄労働組合郡山工場支部

韓国的高速鉄道KTXの民営化の攻撃に対して闘われた鉄道労組の23日間スト後、1300人の解雇や160億ウォンの損害賠償請求など激しい弾圧が続いています。しかし、組合員の団結と志気は衰えていません。鉄道労組の民営化反対は、世論の圧倒的支持を集め、組合員が「正義の闘いは必ず勝利する」という自信を持って闘っています。

鉄道公社は7月、今年2月25日に実施された「1人乗務施行・貨物列車出発点検外注」に反対する24時間警告ストライキ(195人)の参加者のうち50人に解雇、残り10人は停職などの懲戒を出しました。

さらに昨年末の23日間ストで職位解除された組合員8655人への懲戒を狙っています。すでに全北地域では300人の組合員に懲戒委員会への出席要求が通報されています。

さらに機関車一人乗務、職業業務の外注化などの合理化政策を分割・民営化の事前作業として

推進しており、労組の組織破壊を目的とした大規模配置転換を推進しています。

一歩も引けない

こうした最中の7月22日、韓国東部のテペク線で列車の正面衝突事故が発生。死者1人、約100人が重軽傷を負った。セウォル号事故後、こうした事故が多発している。

鉄道労組は「鉄道公社が労組の再三の警告にもかかわらず人件費削減のために1人乗務を強行したことが事故の原因だ。テペク線は山岳区間の単線区間であり機関士1人乗務時の事故の心配が大きな区間」だと鉄道公社に抗議しています。

パクネ政権と鉄道は、民営化政策を貫徹するために鉄道労組を無力化しよう、あらゆる弾圧手段を集中しています。鉄道労組は「ここで一歩も引くことはできない。闘わなければ労働組合を守り抜き、鉄道の安全を守り、労働者の権利を貫くことはできない」と闘い抜いています。

国鉄闘争全国運動6・8集会をもって合流を果たした日韓の鉄道労働者の民営化阻止の闘いが力を発揮する時が来ています。鉄道民営化反対の闘いの国際的意義は明らかです。韓国鉄道労組と連帯し、民営化・外注化反対—国鉄闘争を闘い抜こう。



カネより安全、第2のセウォル号を繰り返すな！鉄道安全確立

国鉄労働組 再度のスト

韓 闘いなくして安全なし

韓国高速鉄道KTXの民営化の攻撃に対して闘われた鉄道労組の23日間スト後、1300人の解雇や160億ウォンの損害賠償請求など激しい弾圧が続いています。しかし、組合員の団結と志気は衰えていません。鉄道労組の民営化反対は、世論の圧倒的支持を集め、組合員が「正義の闘いは必ず勝利する」という自信を持って闘っています。

鉄道公社は7月、今年2月25日に実施された「1人乗務施行・貨物列車出発点検外注」に反対する24時間警告ストライキ(195人)の参加者のうち50人に解雇、残り10人は停職などの懲戒を出しました。

さらに昨年末の23日間ストで職位解除された組合員8655人への懲戒を狙っています。すでに全北地域では300人の組合員に懲戒委員会への出席要求が通報されています。

さらに機関車一人乗務、職業業務の外注化などの合理化政策を分割・民営化の事前作業として

推進しており、労組の組織破壊を目的とした大規模配置転換を推進しています。

一歩も引けない

こうした最中の7月22日、韓国東部のテペク線で列車の正面衝突事故が発生。死者1人、約100人が重軽傷を負った。セウォル号事故後、こうした事故が多発している。

鉄道労組は「鉄道公社が労組の再三の警告にもかかわらず人件費削減のために1人乗務を強行したことが事故の原因だ。テペク線は山岳区間の単線区間であり機関士1人乗務時の事故の心配が大きな区間」だと鉄道公社に抗議しています。

パクネ政権と鉄道は、民営化政策を貫徹するために鉄道労組を無力化しよう、あらゆる弾圧手段を集中しています。鉄道労組は「ここで一歩も引くことはできない。闘わなければ労働組合を守り抜き、鉄道の安全を守り、労働者の権利を貫くことはできない」と闘い抜いています。

国鉄闘争全国運動6・8集会をもって合流を果たした日韓の鉄道労働者の民営化阻止の闘いが力を発揮する時が来ています。鉄道民営化反対の闘いの国際的意義は明らかです。韓国鉄道労組と連帯し、民営化・外注化反対—国鉄闘争を闘い抜こう。

議論を組織しよう

議論を組織しよう

議論を組織しよう

議論を組織しよう